

愛知県農林水産業の試験研究基本計画2020における中間評価概要(林業部門)

重点研究目標 (4本柱)	研究事項	達成 目標数	中間評価					うち 完了数	未実施 目標数	追加 目標数	累計 達成 目標数
			s	a	b	c	d				
			当初計画に比 べて100%以上 の進捗	当初計画に比 べて50%以上 ～100%未満の 進捗	当初計画に比 べて40%以上 ～50%未満の 進捗	当初計画に比 べて10%以上 ～40%未満の 進捗	当初計画に比 べて10%未満 の進捗				
ア 地域に即した森林環境保全・管理システムの開発	(ア) 低コスト・高効率な森林管理技術の開発	9	1	7	1					9	
	(イ) 森林被害の予防・軽減技術の開発	5		5						5	
イ 県産木材の多用途化のための木材利用技術の開発	(ア) 県産木材の性能評価及び利用技術の開発	5	1	2	2					5	
	(イ) 木製構造物の耐久性評価技術の開発	1		1						1	
	(ウ) 未利用樹種の利用技術の開発	3		2				1		3	
ウ 地域の特用林産物の有用性の向上	(ア) 食品としての価値の高いきのこ栽培技術の開発	2		1	1					2	
	(イ) 愛知県産特用樹種の活用	1			1					1	
エ 愛知の強みを生かした戦略的な品種開発による幅広い需要への対応	(ア) 低コスト栽培に適したきのこ品種の開発	2			2					2	
合 計		28	2	18	7	0	0	0	1	0	28

愛知県農林水産業の試験研究基本計画2020における中間評価

【林業部門】

ア 地域に即した森林環境保全・管理システムの開発

研究事項	研究事項の中間評価 (研究事項の進捗状況)	2020年度達成目標	達成目標の進捗状況	左の 進捗度	特記事項	担当
(ア) 低コスト・高効率な 森林管理技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね計画どおり研究が進んでいる。</li> <li>簡易な森林の現存量評価手法の開発については、目標を達成できた。</li> </ul>	伐採跡地における森林回復手法の解明	・野外調査の結果から、「天然更新による森林造成可否のチェックシート」を作成した。	a		森林機能グループ
		強度間伐等による低コスト森林整備手法の検証	・強度間伐事業地を調査し、下層植生の回復を確認した。また強度間伐によって礫の流出量が減少することが分かった。	a		森林機能グループ
		コンテナ苗等を利用した低コスト造林手法の開発	・発芽率向上でコンテナへの直接少数播種を可能にする種子選別技術を開発した。 ・スギの時期別植栽試験に着手した。	a		森林機能グループ
		有用広葉樹の育成指針の作成	・播種後12～15成長期後の評価で、5種類の広葉樹で2m間隔での植栽で通直な材が採れることが実証された。	a		森林機能グループ
		タケの県内資源量の把握と竹林拡大抑制手法の開発(1技術)	・1m高伐採+下刈による竹林根絶までの期間短縮技術を考案した。	a		森林機能グループ
		里山林の維持管理・再生技術の開発(1技術)	・里山林整備事業地を調査し、コナラの実生更新が困難であることを確認した。またコナラコンテナ苗栽培技術の調査を行い、最適な施肥量を明らかにした。	a		森林機能グループ
		海岸林の維持管理・再生技術の開発	・海岸土壌を用いることでクロマツ実生に菌根菌を接種することが可能であることを確かめた。	b		森林機能グループ
		簡易な森林の現存量評価手法の開発(1技術)	・愛知県版スギ・ヒノキ細り表を作成し、スマートフォンアプリでリリースした。	s	2017年度で完了	森林機能グループ
		既存試験地等のモニタリング	・低密度植栽で下刈りを省略しても、樹高に差異がないと認められた。 ・選抜中の無花粉スギ14系統で、生残率や病虫害で問題は認められなかった。	a		森林機能グループ
(イ) 森林被害の予防・軽減技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画どおり研究が進んでいる。</li> </ul>	有害鳥獣の生息密度を推定するための簡易評価手法の開発(1技術)	・インターネットを活用したシカ生息地点確認のシステム(シカ情報マップ)を開発した。	a		森林機能グループ
		有害鳥獣による森林被害の評価手法の開発(1技術)	・インターネットを活用した森林被害地点確認のシステム(シカ情報マップ)を開発した。	a		森林機能グループ
		有害鳥獣の被害軽減手法の開発(1技術)	・中山間地のシカ捕獲支援システム(やるシカないver.2)を開発した。	a		森林機能グループ
		病虫害等の被害評価手法の開発(1技術)	・トラップを用いて病虫害の発生量を評価する手法を調査した。	a		森林機能グループ
		病虫害等の被害軽減化手法の開発	・トラップを用いて病虫害の発生地やその条件を調査した。	a		森林機能グループ

イ 県産木材の多用途化のための木材利用技術の開発

研究事項	研究事項の中間評価 (研究事項の進捗状況)	2020年度達成目標	達成目標の進捗状況	左の 進捗度	特記事項	担当
(ア) 県産木材の性能評価 及び利用技術の開発	・概ね計画どおり研究が進んでいる。 ・スギ・ヒノキのスパン表作成については、目標を達成できた。	スギ・ヒノキのスパン表作成（1技術）	・愛知県スギ・ヒノキ横架材スパン表を記載した「愛知県産材利用の手引き」を作成した。	s	2016年度で完了	資源利用グループ
		立木性能評価による林分の材質管理手法の開発	・応力波伝播速度と立木のヤング率、含水率の関係データ群から、林分の材質指標を伝播速度で評価できることを明らかにした。	b		資源利用グループ
		曲げ性能に優れた精英樹系統の選抜（1系統）	・苗木段階での性能予測について、3クローンの苗木を育成し、苗木の応力波伝播速度からヤング率との関係を明らかにした。	b		資源利用グループ
		気象害木の利用技術開発	・台風被害木について、被害形態によるトリアージ及び被害木の含水率管理による品質管理手法を開発した。	a		資源利用グループ
		耐力壁の開発	・スギの薄板を利用した2層パネルの耐力壁を開発した。	a		資源利用グループ
(イ) 木製建造物の耐久性 評価技術の開発	・計画どおり研究が進んでいる。	木製治山構造物の維持管理指針の作成（1技術）	・木製建造物の劣化状況を調査し、「木製土留工維持管理の手引き」を作成した。	a		資源利用グループ
(ウ) 未利用樹種の利用 技術の開発	・計画どおり研究が進んでいる。	未利用資源の安定確保のための伐採法	・計画どおり2019年度から研究を開始する。	—		資源利用グループ
		流通ルートの開発	・放置竹林でのタケ材供給コスト調査及び供給・流通ルートの調整を図っている。	a		資源利用グループ
		タケ材利用のための特性評価手法の開発	・伐採現場への導入が容易な弾性波によるタケ材の評価手法を開発した。	a		資源利用グループ

ウ 地域の特産林産物の有用性の向上

研究事項	研究事項の中間評価 (研究事項の進捗状況)	2020年度達成目標	達成目標の進捗状況	左の 進捗度	特記事項	担当
(ア) 食品としての価値の 高いきのこ栽培技術の開発	・概ね計画どおり研究が進んでいる。	食品として価値の高いエリンギ栽培技術の開発	・害菌抵抗性の5菌株について、食感等の測定を行っている。	b		資源利用グループ
		食品として価値の高いヤマギマツタケ等栽培技術の開発	・ヤマギマツタケの柄の長さ・太さを増大させる栽培方法を開発した。	a		資源利用グループ
(イ) 愛知県産特産樹種の 活用	・概ね計画どおり研究が進んでいる。	カエデ類のシロップ生産としての活用法及び保全方法の確立	・カエデ類の樹液採取及びシロップの生産工程調査を実施中である。 ・ハナノキ自生地の種子の発芽能力があることが判明し、保全に向けた調査を実施中である。	b		資源利用グループ

エ 愛知の強みを生かした戦略的な品種開発による幅広い需要への対応

研究事項	研究事項の中間評価 (研究事項の進捗状況)	2020年度達成目標	達成目標の進捗状況	左の 進捗度	特記事項	担当
(ア) 低コスト栽培に適したきのこ品種の開発	・概ね計画どおり研究が進んでいる。	多様な栽培条件で生産可能なエリンギ新品種の開発（1系統）	・害菌抵抗性の5菌株について、培地や温度条件を変更して発生試験を行い、選抜している。	b		資源利用グループ
		多様な栽培条件で生産可能なヤナギマツタケ等新品種の開発（1系統）	・過去の研究で作出した優良な特性を持つヤナギマツタケ1菌株と、新たに収集した野生菌株等を用いて、新菌株の作出を試みている。	b		資源利用グループ